

座長体験記

学会の座長といいますと、その分野において御高名で経験豊富な方が多く、しかもほとんどが男性医師という印象を持っていました。実際私は卒後 13 年目にして、まだまだ若手医師と思っていましたので座長に指名されることなど考えもせず過ごしていました。日本循環器学会学術集会総会座長の依頼は、「JCS-ダイバーシティ推進委員会」からの女性座長推薦メールから始まりました。自分には全く無縁と感じていた座長、しかも初回が地方会ではなく循環器学会総会と来たものですから動揺が隠せませんでした。同期前後学年の男性医師より明らかに早いタイミングでの依頼でしたので「なぜ私、正直荷が重すぎる…」というのが本音でした。男性医師は研究会の発表や座長に指名される事がひとつのステータス、志願される方も多いと思いますが、女性医師は私だけでなくどちらかというと引っ込みがち、座長に積極的に志願する方は多くはないのではないのでしょうか（「座長及び学会活動、キャリアプランに関する意識調査（2021 年 4 月実施）の結果」（<https://doi.org/10.3389/fcvm.2022.871546>））。

現実的に座長の依頼を受けてしまった以上、やるしかなく「でもどうやるのか全く分からない、座長って二人座っていたような」程度の記憶にて、医局の先輩医師に相談すると、「ちょうどいいの見つけたよ～～」と示されたのがダイバーシティ推進委員会女性循環器医コンソーシアム（JCS-JJC）部会から 2021 年 1 月に出版されたばかりの『初めての学会座長の手引き』（<https://www.j-circ.or.jp/information/kyodo/consortium.html>）でした。目から鱗でした。導かれるように開きましたところ、「1. 準備して臨む」から始まる具体的な手引書でした。特に有難いと思ったのは座長のセリフが書いてあることです。知りたかったポイントが詰め込まれておりました。「神..」この一言に尽きました。実際は私がとった行動は、セリフを覚えること、担当セッションの演者の抄録を早めに手に入れることです。学会配布の抄録集は実際にはかなり直前配布になりますので、学会事務局にメールで依頼すると事前に担当セッションの抄録集を PDF で頂けました。少なくとも一か月前には入手しておくことをお勧め致します。私は虚血性心疾患を専門としておりますので、インターベンションの分野を希望すると座長アンケートで回答していました。勉強のために自らの経験より少し上の課題「Coronary revascularization/PCI, (new devices/new technology)」を選択していました。PCI に用いる new devices は当院で採用されていないものもありましたが、カテライズや研究会で目にする機会がありましたため、敢えて勉強させていただければとこの課題を選択しました。演者の先生は自分よりベテランの先生も多かったと思います。他の演者より謎に座長が緊張するなか、規定のセリフと考え出した質問をいくつか行い、セッションはほぼ時間通りに無事終了しました。次年度には小さな研究会の一人座長にあたりました。総会に比べたら気兼ねのない会でしたが前回の経験あってこそ、こなせたと感じました。一度目の座長の経験値は二度目以降の経験より遥かに印象的で高いものであったと思います。座長を経験したことで別の視点から発表を見るようになったこと、そして世界が広がりま

した。初めての日循総会の座長は重荷でしたが、大変貴重な経験をさせて頂いたと感じております。

日本医科大学付属病院 循環器内科
野間 さつき（平成 21 年卒）